

# ただいまコート 私は輝く

## ビーチバレー・金田洋世さん 10年ぶり現役復帰

ただいま、宅配便のアルバイトと食品工場の派遣社員を掛け持ち中。元ビーチバレー選手であり、元競輪選手でもある。そんな女性が、大阪にいる。金田洋世さん、36歳。5年前に競輪を引退し、「私が輝ける場所は、もうないのか？」と悩む日々だったが、見つけた！それは、10年ぶりのビーチバレーでの現役復帰と……。



金田洋世さん。写真を撮るときだけマスクを外していただきました。大阪市内

朝6時、大阪市内にある宅配便の事務所に出勤。届いた荷物を仕分けし、担当するタワーマンションへ配達に出かける。配り終えるのは午前11時ごろ。午後1時、食品工場に場所を移し、今度は派遣社員として午後5時半まで、お菓子をつくる。そして帰路につく。

これが、平日の日常だった。昨年の夏までは。いまは仕事を終えるとボクシングジムで汗を流す。そして土日は、ビーチバレーの練習をしている。

今年1月16日、金田さんは、川崎市であったビーチバレーの大会に出た。10年ぶりの試合だ――。



大阪市生野区生まれ。かけっこが速く、泳ぎも上手なスポーツ少女だった。

2歳上の姉が、近所にあったバレーボールのクラブに入っていた。夕方、姉を迎えにいき、いっしょに家に帰っていた。

小学4年のある日。クラブの監督に「サーブを打ってみないか」と言われた。ボールを打つのは初めて。言われるままコートの端に

## 競輪も経験 仕事かけ持ち さらなる夢へ

立つ。オーバーハンドでサーブを放つ。バシッ。ボールがネットの向こうに決まる。「素質、あるぞ」と監督に言われてその気になり、バレーを始めた。

中学でバレー部に入った。絶対的エースとして、びしびしスパイクを決める。近畿大会で優勝、府の中学選抜チームにも選ばれた。だが、バレー部の強い私立高校からの勧誘をすべからず断った。「厳しい練習の日々に燃え尽き、バレーをやめるつもりでした」

夢は、体育教師になることだった。体育科がある府立大塚高校に進んだ。バレー部を見ていると、楽しそうだった。「このくらいだったらええかな」と入部した。2年生のときに監督が代わり、ふたたび厳しい練習の日々に。並みいる私立強豪校を倒し、府下で指折りの強いチームになった。

高校3年のとき。高校生のビーチバレー全国大会、その府予選に高校のチームメイトと出た。ぶっつけ本番に近かったが、優勝した。風を感じる。砂浜が気持ちいい。

大阪体育大に進み、バレーとビーチの両方を続けた。大学を卒業してビーチの日本ツアーに参戦、何度も優勝した。

2012年にあるロンドン五輪を目指したが、あきらめてしまった。「私、よく言えばチャレンジ精神が旺盛、悪く言えば飽き性なんです」

27歳だった金田さんは、次を探した。選んだのは競輪だった。14年にデビューしたころは勝ったこともあったが、その後は鳴かず飛ばず。レースで自転車同士

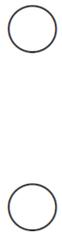
がぶつかって落車したときの恐怖心を克服できなかったのだ。17年1月に競輪を引退した。

体操教室のコーチをしたり、中学生のバレー部の外部指導員をしたり。何をしたらいいかわからず、投げやりになったこともあった。

21年7月、東京五輪。ビーチバレーの中継を見た。ペアを組んだことがある村上めぐみさんが出ていた。心の底から応援した。でも、うらやましいとも思った。私が輝けることはないのか、ノートに書いていった。

朝から夕方まではたらたら汗を流し、土日はビーチバレーの練習を始めた。一般財団法人「WILL OF」(東京)が、夢や目標に挑戦する派遣社員を支援すると知った。活動資金の一部を援助してもら

うことになり、ビーチの練習にかかる費用などにあてている。ビーチバレーでの現役復帰と、もうひとつ夢ができた。それは、ボクシングで五輪にでること。「へなちょこパンチですが、ジムのみなさんからポテンシャルがあるとされています」。五輪には40歳まで出られる。



そして……。

1月16日、川崎であったビーチバレーの現役復帰戦。2試合戦ったが、いずれも負けた。

ポロポロだった。でも、10年ぶりにコートに立てた喜びを、かみしめた。これからや、私！



競輪選手としてデビューしたばかりの金田さん(中央)。神奈川県平塚市にある競輪場で練習をつんでおり、市役所を訪れた。2014年6月、同市

新潟国体に出場、優勝したときの金田さん(左)＝2009年9月、新潟県上越市